

令和4年度 こどもみらい科 2年

教 育 課 程 表

授 業 計 画

学校法人 実教学園

FラボC フチガミ 医療福祉専門学校

こどもみらい科 2年

令和4年度

科目名	時間数	単位数
音楽表現技術	16	1
幼児と造形表現	16	1
幼児と健康	16	1
子ども家庭福祉	30	2
保育原理	30	2
社会的養護Ⅱ	16	1
幼児への特別な支援	16	1
障がい児保育	16	1
子どもの食と栄養	32	2
子どもの保健	30	2
子育て支援	16	1
子ども家庭支援の心理学	30	2
教育実習(1回目) ※選択必修	[80]	[2]
教育実習(2回目) ※選択必修	[80]	[2]
教育相談	30	2
保育実習事前事後指導Ⅰ(保育所)	10	1
保育実習事前事後指導Ⅰ(施設)	10	
保育実習Ⅰ(保育所)	80	2
情報処理入門Ⅰ	32	2
健康科学	16	1
ピアノ演習Ⅱ	15	1
キャリア形成Ⅱ	30	2
実習指導	20	1
保育士現場実習Ⅰ ※選択必修	[80]	[2]
保育士現場実習Ⅱ ※選択必修	[80]	[2]
乳幼児心理学	16	1
保育実践研究	20	1
必修科目 計	543	31
選択必修科目 計	160	4
合 計	703	35

※選択必修の教育実習、保育士現場実習のいずれかを選択すること

科 目 名	音楽表現技術	担当者	有馬 あゆみ	ク ラ ス	期 別
				2NT	通年

1. 教育目標

幼稚教育に携わる保育者の音楽技術の習得、
及び資質の向上を目指して学習する

2. 授業内容

<声楽>

コールユーブンゲンやコンコーネを歌い、基礎力（音程、リズム等）を身につける

<器楽演奏>

子どもの歌を中心に楽曲構成を学び、演奏表現力を身につける

3. 授業計画

1	記録票 声楽	1	1 ~ 8	ピアノレッスン	
2		2	記録票 ピアノ① 9 ~ 15		
3		3	16 ~ 22		
4		4	23 ~ 30		
5		5	記録表 ピアノ② 31 ~ 38		
6		6	39 ~ 45		
7	試験課題発表 レッスン				
8	実技試験				

4. 評価方法

◎レッスンの受講姿勢

◎実技試験の成績

- ・記録票 声楽から コールユーブンゲン1曲、子どものうた1曲の計2曲をうたう
- ・記録票 ピアノ①②から 課題曲1曲、自由曲1曲の計2曲を演奏する

5. テキスト及び参考書

近畿大学テキスト2冊（音楽：ピアノ教本と声楽教本）

その他、自身に合った子どもの歌やピアノ教本、またはお気に入りの曲を選び演奏してみることをお勧めします。

6. その他

声楽・ピアノともに練習あるのみです。短時間でも毎日続けていくことが上達のカギとなります。
記録票の進度に合わせ、焦ることなく丁寧に取り組んでください。特にピアノについては初見状態でのレッスンは成立しないので、予習・自己研鑽は必須です。

科 目 名	幼児と造形表現	担当者	中島 宏	ク ラ ス	期 別
				2NT	通年

1. 教育目標

表現方法を通じて、表現することの楽しさ、おもしろさ、工夫や創作意識の習得と指導技術を学ぶ。

2. 授業内容

表現技術の習得と指導法

3. 授業計画

各授業の内容については、授業初回にてお知らせいたします。

4. 評価方法

出席及び提出物による評価

5. テキスト及び参考書

6. 実務経験の有無

あり (経歴 :)

7. その他

科 目 名	子ども家庭福祉	担当者	蓮井 栄二	クラス	期別
				2NT	前・後期

1. 教育目標

- 我が国の「児童福祉」は、戦後の孤児の保護や浮浪児・非行児童の保護対策から、子どもと子どもが生まれ育つ家庭と地域を含めた支援「子ども（児童）家庭福祉」へと変化してきた。その変遷と現在の「子ども家庭福祉」の現状を理解し、次世代を担う子どもの健全な育成を社会全体で協力し支援していく仕組みについて学ぶ。

2. 授業内容

- テキストを中心に子ども家庭福祉について学ぶ
- 授業内容に関連する資料等を確認し、理解を深める

3. 授業計画

1	こども家庭福祉とは、課題の確認	9	児童福祉施設
2	待機児童問題について 1	10	子ども家庭福祉サービス 1
3	待機児童問題について 2	11	子ども家庭福祉サービス 2
4	子育て支援施策について 1	12	子ども家庭福祉サービス 3
5	子育て支援施策について 2	13	保育サービス
6	現代社会と子ども家庭福祉	14	少子化対策と子育て支援
7	子ども家庭福祉に関わる法律	15	まとめ
8	子ども家庭福祉の機関と専門職		

4. 評価方法

- 課題提出 : 70 点
- 出席、授業態度 : 30 点

5. テキスト及び参考書

- テキスト：大津泰子著 『児童家庭福祉 子どもと家庭を支援する』ミネルヴァ書房
- 参考文献：保育所保育指針、幼稚園教育要領、他授業中に紹介

6. 実務経験の有無

- □ あり (資格・職種 :)

7. その他

- なし

科 目 名	保育原理	担当者	中山 八保子	ク ラ ス	期 別
				こども未来科 2年	通 年

1. 教育目標

保育とは何か、その基本について学ぶ。現代社会における保育の役割、意義、保育者の役割、保育の歴史、思想、制度など保育に関わる基本的な事項について学ぶ。

発達の過程や保育の内容、環境、方法、形態など保育の実践的展開に関わる問題を取り上げる。

2. 授業内容

保育者として身につけておくべき保育者の基本の習得

子ども観、保育観の確立を目指す

3. 授業計画

1	オリエンテーション
2	レポート①「人間の子どもになぜ保育が必要なのか」
3	レポート②「ルソーの子どもに対するとらえ方の特徴と、彼の思想が近代幼児教育に与えた影響について」
4	1冊目レポートまとめ
5	レポート①「わが国の保育内容の変遷を概観し、戦後の保育内容のとらえ方の特徴を明らかにする」
6	レポート②「自由保育と一斉保育について」
7	2冊目レポートまとめ
8	幼児の思考の特徴、幼稚園と保育所の保育目的・目標、両者の共通点及び相違点、幼保一元化について
9	保育方法の基本原理、子どもの「遊び」の意義
10	保育者が幼児の実態を把握する際に留意すべき点について
11	「倉橋惣三」「自己中心性言語」「児童福祉施設最低基準」「世界図絵」
12	「幼稚園児指導要録」「恩物」「児童福祉法第24条」「喃語」
13	「縦割り保育」「大人の縮図」
14	「二葉幼稚園」「ヘッドスタート計画」
15	科目試験対策

4. 評価方法

レポート (30%) 授業態度 (30%) 科目試験 (40%) ※ 6月4日 (土) 科目試験

5. テキスト及び参考書

「保育原理」近畿大学九州短期大学通信教育部

6. 実務経験の有無

あり (資格 : 保育士資格、幼稚園教諭二種免許)
 (実務経験 : 保育所、児童発達支援センター、児童養護施設)

科目名	社会的養護II	担当者	中山 八保子	クラス	期別
				こどもみらい科2年	通年

1. 教育目標

家庭的養護と施設の小規模化、ソーシャル・インクルージョン（社会的包括）の広がりの中で、居住型の児童福祉施設における養護の理解を深める。社会的養護を必要とする児童を支援するための知識や技能を習得させる。

2. 授業内容

児童福祉施設（養護系）の機能と役割を理解する。

事例を通して、グループワークを行い、施設保育者の役割と意義を学ぶ。

3年次の児童福祉施設実習に向けて調べ学習を行う。

3. 授業計画

1	児童の権利擁護、児童の最善の利益について考える
2	虐待された子どもへの支援
3	乳児院の養育をめぐる状況と支援の実際
4	児童養護施設の養育をめぐる状況と支援の実際
5	障害児入所施設の状況と支援の実際
6	グループ発表
7	グループ発表
8	グループ発表

4. 評価方法

レポート課題、授業への積極的参加（30%）

プレゼンテーション（70%）

5. テキスト及び参考書

「よくわかる社会的養護内容」小木曾 宏編（ミネルヴァ書房）

6. 実務経験の有無

あり （資格：保育士資格、幼稚園教諭二種免許）
 （実務経験：保育所、児童発達支援センター、児童養護施設）

科 目 名	幼児への特別な支援	担 当 者	山下 泰史	ク ラ ス	期 別
				2 NT	通年

1. 教育目標

- ・あらゆる障がいについての基本的知識を習得する。
- ・障がい児に対する保育・教育においての配慮や支援を考える。
- ・障がい児のきょうだいや保護者への支援について考える。

2. 授業内容

- ・障がい児（知的・発達・視覚・聴覚・肢体不自由・病弱、身体虚弱、言語・重複）への保育・教育、配慮
- ・関係機関との連携
- ・家族支援

3. 授業計画

1	特別支援教育の対象となる幼児児童生徒、障がい児教育の歴史
2	障がいの概念と実態把握
3	知的障がい・発達障がい児の指導
4	視覚障がい、聴覚障がい児の指導
5	肢体不自由、病弱、身体虚弱、言語障がい、重複障がい児の指導
6	関係機関との連携
7	家族等への支援
8	まとめ

4. 評価方法

定期試験(70%)、出席状況・授業態度・提出物等 (30%)

5. テキスト及び参考書

よくわかる障害児保育 第2版 (ミネルヴァ書房)

6. 実務経験の有無

- あり (資格・職種 : 中学校教諭一種免許 (社会) ・高等学校教諭一種免許 (社会) ・特別支援学校教諭二種免許、精神保健福祉士)
 (実務経験 : 小・中・高等学校・特別支援学校教員、精神科病院ソーシャルワーカー)

7. その他

科 目 名	障害児保育	担 当 者	山下 泰史	ク ラ ス	期 別
				2 NT	通年

1. 教育目標

- ・主に発達障害、知的障害児への保育、療育の実際を知る。

2. 授業内容

- ・障がい児（主に知的・発達）への保育・教育、配慮について体験する。
- ・知的、発達障がい児の生活技能訓練を体験する。

3. 授業計画

1	
2	
3	児童発達支援センターでの体験実習
4	
5	
6	子どものSST
7	
8	まとめ

4. 評価方法

出席状況・授業態度・提出物等

5. テキスト及び参考書

よくわかる障害児保育 第2版 (ミネルヴァ書房)

6. 実務経験の有無

- あり (資格・職種 : 中学校教諭一種免許（社会）・高等学校教諭一種免許（社会）、特別支援学校教諭二種免許、精神保健福祉士)
 (実務経験 : 小・中・高等学校・特別支援学校教員、精神科病院ソーシャルワーカー)

7. その他

科目名	子どもの食と栄養	担当者	山根 奈穂子	クラス	期別
				こどもみらい科 2年	通年

1. 教育目標

小児期（妊娠・授乳期を含む）の栄養の重要性を理解し、望ましい食生活と栄養教育について学習する
今日の食生活の実態と乳幼児期の実状との関係を的確に理解させ、子育てに実際にどのように対応することが必要かを認識し、応用することを目的とする。

2. 授業内容

小児期の各発育時期における身体的特徴を解説し、それに見合う栄養摂取や食物摂取の方法と、それに関連する栄養問題を中心に学習を進めていく。

乳児栄養・離乳食などに関連した発育過程と食事の問題、小児の食行動異常と性格形成との関連など、複雑化している小児の食生活の実態を理解する。

食品の基礎知識や調理の特性について理解を深める。

小児の生活習慣病や食物アレルギーなど小児の「食」に関する健康上の問題なども解説する。

3. 授業計画

1	オリエンテーション 子どもの健康と食生活の意義 ・子どもの心身の健康と食生活の関係	・子どもの食生活の現状と課題	
2	栄養に関する基本的知識 ・栄養の基本的概念と栄養素の種類と機能	・食事摂取基準の意義とその活用	
3	子どもの発育、発達と食生活（1） ・発育、発達と栄養、食生活	・摂食機能の発達 ・食生活と子どもの健康	
4	妊娠・授乳婦の栄養ケア・マネジメント・妊娠のメカニズムと妊婦の食生活・妊娠期、授乳期の栄養と食生活 ・妊娠期にみられる主なトラブルと栄養、食生活	・母乳分泌と妊娠期、授乳期の食生活	
5	乳児期の授乳・離乳の意義と食生活 ・乳児期の心身の特徴と食生活との関係性	・乳汁栄養 離乳の意義とその実践 ・乳児期の栄養上の問題と健康への対応	
6	幼児期の心身の発達と食生活 ・幼児期の心身の特徴と食生活の関係性	・幼児期の食生活の特徴とその実践 ・間食の意義とその実践 ・幼児期の栄養上の問題と健康への対応 ・幼児期の食育	
7	学齢期、思春期の心身の発達と食生活 ・学齢期、思春期の具体的な食生活	・学齢期、思春期の心身の特徴と食生活 ・学校給食の重要性と学校での食育 ・学校給食と家庭、地域との連携	
8	筆記試験		
9	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 ・子どもの疾病と食生活 ・疾病及び体調不良の子どもへの対応	・食事療法が必要な子どもへの対応	
10	障がいのある子どもの食と栄養 ・障がいの特徴と食生活	・摂食、嚥下機能の発達および障がいの特徴と食生活 ・障がいのある子どもの食生活の実際	
11	児童福祉施設における食生活と栄養 ・児童福祉施設の特徴と食生活 ・子どもの集団生活と献立作成、調理の基本 ・児童福祉施設の食事計画の基本方針		
12～ 15	調理実習 レポート提出 (課題：朝食が必要な理由および望ましい内容と具体的な献立・望ましくない内容とその理由)		
16	食育の基本と内容、方法 ・食育の基本的考え方 ・食育の方法		

4. 評価方法

授業、試験への積極的な参加等

5. テキスト及び参考書

6. 実務経験の有無

あり (経歴 : 管理栄養士 (病院・保育園))

7. その他

科 目 名	子どもの保健	担当者	青木 福美	ク ラ ス	期 別
				2 NT	

1. 教育目標

1. 子どもの健康と保健活動の意義を理解することができる
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解することができる
3. 子どもの健康状態とその把握の方法について理解することができる
4. 子どもの疾病と適切な対応や予防方法について理解することができる
5. 多職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解することができる

2. 授業内容

子どもの心身の発達・成長を促し健康を保持・増進することは保育活動の原点である。そこで、子どもの身体の生理・運動・精神的機能の成長・発達を教授し、その上で健康状態に応じた保育活動を実践できる基礎的な知識を理解できるようにする。

子どもにおこりやすい疾病、異常、障害などの理解を深め、保育士としてその予防、危険にすばやく対処できるよう、正しい知識、技術を習得させる

3. 授業計画

1	オリエンテーション 生命の保持と情緒の安定にかかる保健活動の意義と目的
2	健康の概念と健康指標
3	現代社会における子どもの健康に関する現状と 母子保健施策
4	地域における保健活動と子ども虐待防止
5	身体発育及び運動機能の発達 と保健
6	生理機能の発達と保健
7	発育発達の把握と健康診
8	主な疾病の特徴①新生児の 病気、先天性の病気
9	主な疾病の特徴
10	主な疾病の特徴
11	主な病気の特徴
12	主な疾病の特徴⑤
13	子どもの疾病の予防と適切な対応
14	まとめ
15	テスト

4. 評価方法

テスト 70点 出席点 授業態度

5. テキスト及び参考書

テキスト：近畿大学指定“よくわかる子どもの保健”：

竹内義博、大矢紀昭編、ミネルヴァ書房

6. 実務経験の有無

あり (資格・職種 :)

7. その他

科 目 名	子育て支援	担当者	高田翔太郎	ク ラ ス	期 別
				2 N T	2022年度

1. 教育目標

保育士を目指す学生にとって必要とされる、子育て支援・相談援助の基礎を習得することを目標とする。援助展開における援助関係形成、援助過程の技術を効果的に活用するための理論と方法を身につけること内容とする。また、学生自身が持っている考え方の傾向を学生自身が知り、自己覚知が深められるような授業を行う。

2. 授業内容

- ・自分自身の考え方や価値観の傾向を知る。
- ・子育て支援に関する相談援助の基本的な姿勢について理解する。
- ・支援における情報収集の方法を体験し理解する。

3. 授業計画

1	講義・グループワーク ・子育て支援とは　・自己紹介、他己紹介
2	講義・グループワーク ・相談援助とは何か
3	講義・グループワーク ・自身の考え方の傾向を知る
4	講義・グループワーク ・支援する場合の距離、態度を学ぶ
5	講義・グループワーク ・支援に関するツールを学ぶ
6	講義・グループワーク ・カウンセリングの基本的姿勢を理解する
7	講義・グループワーク ・支援するチームで意見をまとめる体験をする
8	講義・グループワーク ・授業内容のまとめと振り返り

4. 評価方法

試験 70点

平常点 (授業態度) 30点

5. テキスト及び参考書

特にありません。授業ごとに資料を配布する予定です。

6. 実務経験の有無

あり (資格・職種 :)

7. その他

支援する場合に必要となる技術を学び、それを体験してもらう授業にしたいと考えています。

科 目 名	子ども家庭支援の心理学	担当者	中山 八保子	クラス	期別
				こどもみらい科2年	通年

1. 教育目標

生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得する。

家族、家庭の意義や機能を理解した上で、親子関係や家族関係等について発達的な観点から捉える。

子育て家庭をめぐる現代の社会状況と課題を理解する。

子どもの精神保健とその課題について理解する。

2. 授業内容

乳幼児期、児童期、青年期、成人期、老年期と生涯にわたる発達について理解した上で、各時期の発達課題や初期経験の重要性について学ぶ。また、家族・家庭の意義や機能を理解し、子どもとその家庭を包括的に捉える視点を習得する。さらに、子育て家庭に関する現状と課題、子どもの精神保健とその課題について学ぶ。

3. 授業計画

1	レポート1冊目「虐待家族の支援について」
2	現代の子育てを取り巻く環境の状況と課題
3	児童虐待の早期発見のために子どもや保護者のどのような様子に気をつけると良いか。
4	レポート2冊目「生涯発達とは何か。生涯発達の視点の重要性」
5	男性・女性のライフコースの歴史的変化と特徴、子育て支援について
6	子育て支援を行う社会資源、その資源の概要と支援内容について。
7	家族の意義と機能について
8	子育て支援サービスの内容について
9	乳幼児期の発達の特徴、また初期経験の重要性について
10	児童期・青年期の発達の特徴について
11	子どものこころの健康に関する問題の概要と対応について。
12	成人期・老年期の発達の特徴について
13	特別な支援を要する家庭の支援について
14	子育て支援における関係・専門機関との連携について
15	科目試験に向けてのまとめ

4. 評価方法

レポート (30%) 授業態度 (30%) 科目試験 (40%) ※11月3日 (木) 科目試験

5. テキスト及び参考書

「子ども家庭支援の心理学」 白川佳子・福丸由佳編集 (中央法規出版)

6. 実務経験の有無

あり (資格: 保育士資格、幼稚園教諭二種免許)
(実務経験: 保育所、児童発達支援センター、児童養護施設)

科 目 名	教育実習	担当者	立川 優子	クラス	期別
				2 NT	通年

1 教育目標

- ・幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。
- ・幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。
- ・幼稚園での1日の教育活動を振り返り、観察記録を作成することができる。
- ・部分実習または、全日実習の指導計画を立案することができる。

2 実習内容

【1回目】幼稚園においてどのような活動が、どのような方法で行われているかを把握することに努める。

- ①幼稚園における1日の生活・活動の流れと生活・活動内容の概要
 - ②遊び・生活場面での園児の姿
 - ③園児の行動に対する幼稚園教諭の対応
- 指導教諭の指導と助言を受けながら、記録や指導案を作成する

【2回目】

1回目の実習を基礎として、専門教育科目で学習したあらゆる知識・技能を統合しながら、以下のようなスキルを獲得していく。

- ①部分実習、全日実習の指導計画の作成および指導
- ②幼稚園教諭としての保育技能の習得および態度の養成
- ③自分自身の保育観はどのようなものか

4 評価方法

- ①出勤状況・実習内容 30%
- ③日誌・事後レポートの記述内容 40%
- ④実習園による評価 30%

5 テキスト及び参考書

教育実習事前事後指導（近畿大学九州短期大学より配本）

教育実習日誌

補足資料は授業にて配布

6 実務経験の有無

- あり（経歴：幼稚園教諭として幼稚園勤務）

7 その他

科 目 名	教育相談	担当者	河口陽子	ク ラ ス	期 別
				2NT	通年

1. 教育目標

- ①教育相談の意義と課題について説明できる。
- ②カウンセリングの意義について説明できる。
- ③発達障害、不登校、いじめ、反社会的行動等の今日的教育問題について理解し、それらの支援方法について述べることができる。
- ④教育相談のための社会資源について述べることができる。

2. 授業内容

- ①教育相談とは何か。
- ②各発達期における子どもの問題について。
- ③発達障害の理解と支援。
- ④カウンセリングの理論と技法。
- ⑤スクールカウンセラーと支援根とワークの構築。

3. 授業計画

1	ガイダンス～教育相談とは
2	教育相談の目的
3	カウンセリングの基礎理論
4	乳幼児期における子どもの問題
5	児童期における子どもの問題
6	思春期における子どもの問題
7	発達障害の理解と支援
8	精神疾患の理解と支援
9	不登校問題の理解と支援
10	いじめ問題を考える
11	反社会的行動を考える
12	スクールカウンセラーの機能
13	学校内外の支援ネットワークの構築
14	まとめ

4. 評価方法

レポート (70%) + 授業への参画度 (30%)

5. テキスト及び参考書

西見奈子編著 (2010) 『子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門』 萌文書林

6. 実務経験の有無

あり (資格・職種 :)

7. その他

授業は、みんなで創り上げていくものです。積極的な参画を期待します。

科目名	保育実習事前事後指導 I (保育所)	担当者	中山 八保子	クラス	期別
				こどもみらい科2年	通年

1. 教育目標

保育実習の全体的な枠組みを理解し、実習に臨む心構えを作る。
保育指導計画の作成や実習日誌の書き方などに関わる知識と技術を身につける。
実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や学習目標を明確にする。

2. 授業内容

手遊び、歌、絵本の読み聞かせなどの教材や設定保育など保育実習に向けた準備
保育所の社会的役割、種類、内容などについての事前学習
各自設定した実習目標、課題、学習計画に沿って、保育実習に向けた準備
実習終了後の実習事後レポート、振り返りシートの作成と提出

3. 授業計画

1	保育実習の全体の流れと諸注意、保育所実習の意義・目的・内容について
2	保育所の1日の流れとデイリープログラムの理解
3	保育所実習の実習記録の作成について（実習日誌の書き方）
4	保育所実習の指導案作成について（指導案の書き方）、実習最終チェック
5	実習振り返りシート記入、実習報告会に向けてのまとめ

4. 評価方法

- ① 授業への積極的参加、課題提出 (30%)
- ② 実習日誌 (30%)
- ③ 「保育実習 I」実習事後レポート、振り返りシート (40%)

5. テキスト及び参考書

「幼稚園・保育所・児童福祉施設の実習ガイド」 林幸範、石橋裕子著（同文書院）
「保育所保育指針解説書」 厚生労働省
「幼稚園教育要領解説」 文部科学省

6. 実務経験の有無

- あり (資格：保育士資格、幼稚園教諭二種免許)
(実務経験：保育所、児童発達支援センター、児童養護施設)

科目名	保育実習事前事後指導 I (施設)	担当者	中山 八保子	クラス	期別
				こどもみらい科2年	通年

1. 教育目標

児童福祉施設における保育士の役割を理解し、施設実習に臨む心構えを作る。

施設実習における施設の理解、実習日誌の書き方など知識と技術を身につける。

2. 授業内容

児童福祉施設の社会的役割、種類、内容などについての事前学習を行う。

実習に行く施設の種別グループに分かれ、調べ学習を行い、発表することで情報共有をする。

3. 授業計画

1	施設実習に関する基礎的理解と諸注意 実習の目的と概要、実習の意義等を確認
2	施設における保育内容と養護、施設の役割と機能について
3	グループ別調べ学習
4	グループ別調べ学習
5	調べ学習発表内容のまとめとりハーサル

4. 評価方法

- ① 授業への積極的参加 (20%)
- ② レポート (30%)
- ③ 調べ学習発表 (50%)

5. テキスト及び参考書

「幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド」 林幸範、石橋裕子著 (同文書院)

「保育所保育指針解説書」 厚生労働省

「幼稚園教育要領解説」 文部科学省

6. 実務経験の有無

- あり (資格 : 保育士資格、幼稚園教諭二種免許)
(実務経験 : 保育所、児童発達支援センター、児童養護施設)

科目名	保育実習 I (保育所)	担当者	中山 八保子	クラス	期別
				こどもみらい科2年	通年

1. 教育目標

保育現場で保育所を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することができる。

実践を通して、保育の技術、能力を向上させる。

自分なりの保育観や子ども観を深め確立する。

2. 授業内容

「保育実習」は、保育士資格を取得するために児童福祉説で行う最初の実習である。10日間の実習で次の内容を体験的に学ぶ。

- ① 保育所における1日の流れ
- ② 子どもへの理解を深める
- ③ 保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ
- ④ 保育所等の技術や記録方法について実践的に学ぶ
- ⑤ 保育士を志すものとして自覚を高める

3. 授業計画

1	保育所の内容、機能についての理解（保育所の1日の流れやプログラムの理解）
2	保育所における子どもの理解（年齢・月齢ごとの子どもの発達とその特徴など）
3	保育所における保育者の職務内容、役割の理解
4	実習日誌や指導案の書き方

※ 担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に臨むこと

4. 評価方法

実習指導者による評価（実習評価表）を参考に、実習日誌の内容や巡回訪問時の実習状況、出席状況等を加味して全体評価を行う。

5. テキスト及び参考書

「保育所保育指針解説書」厚生労働省

「幼稚園教育要領解説」文部科学省

「幼稚園・保育所・児童福祉施設実習ガイド」林幸範、石橋裕子著（同文書院）

6. 実務経験の有無

- あり (資格：保育士資格、幼稚園教諭二種免許)
 (実務経験：保育所、児童発達支援センター、児童養護施設)

科 目 名	情報処理入門 I	担当者	蓮井 栄二	ク ラ ス	期 別
				2NT	前・後期

1. 教育目標

- Windows の基本的な操作方法、Word による基本的な文章の作成方法、Excel による基本的な表の作成方法を身につける
- 保育での活用を想定し、現場で利用できる技能を身につける

2. 授業内容

- 各授業の前半、プリントを用いて基本的な操作方法を学ぶ
- 後半は当日の操作方法の習熟と個人で課題を練習する時間とする

3. 授業計画

1	情報処理入門、Windows の基本操作	9	Word の活用 1
2	Word 入門	10	Word の活用 2
3	Word 応用	11	Excel の活用 1
4	Excel 入門	12	Excel の活用 2
5	Excel 応用	13	PowerPoint の活用 1
6	PowerPoint 入門	14	PowerPoint の活用 2
7	PowerPoint 応用 1	15	PowerPoint の活用 3
8	PowerPoint 応用 2	16	PowerPoint の活用 4

4. 評価方法

- 課題の提出 : 70 点
- 出席、授業態度 : 30 点

5. テキスト及び参考書

- テキスト : 授業中にプリントを配布
- 参考文献 : 授業中に紹介

6. 実務経験の有無

- あり (資格・職種 : 情報システム開発会社にて勤務)

7. その他

- なし

科 目 名	健康科学	担当者	片山 敏克	ク ラ ス	期 別
				2NT	後期 (8)

1. 教育目標

- ①近畿大学の「レポート試験」と「科目試験」に合格できる。
- ②健康科学の知識を日常生活に繋げられる。また、健康を意識した行動が実践できる。

2. 授業内容

授業は「レポート試験」と「科目試験」の対策を中心に進めていきます。両試験の主題は「自身の考えを文字として表出できること」なので、時々グループワークや演習を行い、共同で学習しながら、前期で行われた技術を実践できるようにしていきましょう。

「科目試験」はテキスト持ち込みが可能ですが、テキストへの事前書き込みは不可です。授業内容をテキスト内容とリンクして理解していくようにしましょう。

3. 授業計画

1	オリエンテーション レポート試験対策…現代社会におけるスポーツの意義と課題① 第1章 スポーツの概念
2	レポート試験対策…現代社会におけるスポーツの意義と課題② 第2章 社会生活の変化とスポーツ
3	第3章 スポーツ参加の現状と課題①
4	第3章 スポーツ参加の現状と課題②
5	第4章 健康の概念
6	第5章 健康・体力と運動
7	第6章 生活におけるトレーニング
8	科目試験対策（まとめ）

4. 評価方法

近畿大学…試験（科目・レポート）100%

本校…①近畿大学の試験（科目・レポート）を70%に換算 ②授業態度&出席状況（30%）

5. テキスト及び参考書

【図書名】生涯スポーツ・健康科学
【監修者】鐘ヶ江淳一
【出版社】近畿大学九州短期大学 通信教育部

その他、参考文献

6. 実務経験の有無

あり （資格・職種：看護師（看護管理者研修終了）、健康福祉学修士）

7. その他

将来に向けて「聴く力」「考える力」が向上できるように授業終了時に理解度の確認を様々な方法で行います。授業をしっかりと聴くようにしましょう。

科 目 名	ピアノ演習Ⅱ	担 当 者	有馬 あゆみ	ク ラ ス	期 別
				2NT	通年

1. 教育目標

幼児教育に携わる保育者の音楽技術の習得、
及び資質の向上を目指して学習する

2. 授業内容

一人ひとりのレベルに合わせたピアノレッスン
童謡の弾き歌いを目標に、ピアノ演奏法を基礎から身につける

3. 授業計画

1～7	実習及び保育現場で必須の童謡を 中心とし、個々に研鑽を積む
-----	----------------------------------

4. 評価方法

- ・レッスンの受講姿勢
- ・毎回課題曲を1人ずつ演奏する
- ・試験当日課題を1人ずつ演奏する

5. テキスト及び参考書

- ・近畿大学テキスト（音楽ピアノ教本）
- ・その他
自身に合った子どもの歌やピアノ教本、またお気に入りの曲を選び
演奏してみることをお勧めします。

科 目 名	キャリア形成Ⅱ	担 当 者	山下 和子	ク ラ ス	期 別
				2 N T	通 年

1. 教育目標

- 自分の考えをしっかりと持ち、考え方やものの見方の異なる他者を理解し、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
- 自己実現に向け、コミュニケーション能力を学生生活の中で実践し、社会に生かすことができる。

2. 授業計画

内 容			
1	コミュニケーションスキルを磨こう		
2	コミュニケーションスキルを磨こう		
3	コミュニケーションスキルを磨こう		
4	幼稚園実習報告会		
5	オープンナーサリー		
6	オープンナーサリー		
7	オープンナーサリー		
8	オープンナーサリー		
9	グループワーク クリスマス会 計画		
10	グループワーク	〃	準備①
11	グループワーク	〃	準備②
12	グループワーク	〃	準備③
13	グループワーク	〃	準備④
14	グループワーク	〃	実践①
15	グループワーク	〃	実践②

3. 評価方法

提出物（50%）、出席状況、授業の取り組み状況および態度と意欲（50%）

4. 実務経験の有無

あり （ 資格・職種 : キャリアコンサルタント、キャリアサポートー ）

科 目 名	実習指導	担当 者	山下 和子	ク ラ ス	期 別
				2 N T	通 年

1. 教育目標

幼稚園実習を実り多いものにするために、しっかりとした事前準備と心構えが大切です。実習における各自の課題を明確にし、実習現場で必要な知識・技能・態度（心構え）等を総合的に修得し、実践力を高めます。

2. 授業内容

実習前にすべき事柄、指導計画案の作り方、実習記録の作成、および実習事後にすべき事柄等を中心に具体的な実例に基づきながら学習を進めます。

3. 授業計画

1	教育実習の流れと心構え
2	事前訪問の記録等について
3	実習記録の作成について
4	教育実習（1回目）前の最終確認、お礼状
5	教育実習（1回目）の振り返り
6	教材研究・指導計画の作成
7	教材研究・指導計画の作成
8	ロールプレイ
9	ロールプレイ
10	教育実習（2回目）の振り返り、今後の課題を明確にする

4. 評価方法

課題提出

グループワーク・ロールプレイの取り組み

出席状況

5. テキスト及び参考書

『幼稚園事前実習指導』 宮部和子、竹内里絵 近畿大学九州短期大学通信教育部発行

『教育実習日誌』 近畿大学九州短期大学通信教育部発行

『幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』 林幸範、石橋裕子 同文書院

6. 実務経験の有無

- あり （資格：小学校教諭一種、保育士）
 （実務：小学校教員）

科 目 名	保育士現場実習Ⅰ	担 当 者	山下 和子	ク ラ ス	期 別
				2 N T	通 年

1. 教育目標

これまでに学んだ知識・技術をもとに、保育現場での直接体験を通して、

- ① 保育所の役割と機能について理解する
- ② 乳幼児の発達を理解する
- ③ 保育内容および保育環境について理解する
- ④ 保育士としての使命感・責任感を自覚し、優れた専門性を持つ保育者になるための意欲を高める

2. 授業内容

10日間の実習で、保育所保育を体験的に学ぶ。

その過程において、保育所の役割と機能、子どもの観察とその記録、子どもへの援助やかかわり方、環境構成のあり方を学ぶ。

3. 授業計画

1	オリエンテーション
2	観察実習 <ul style="list-style-type: none"> ・保育所での乳幼児の姿を観察する ・保育士の援助行動について観察する ・環境構成について観察する
3	参加実習 <ul style="list-style-type: none"> ・1日の流れを理解し、保育士の補助をする ・子どもたちとのかかわりを通して、子どもへの理解を深める ・保育の環境整備をする

4. 評価方法

- ・実習日誌、事後レポートなどの課題提出
- ・勤務状況等

5. テキスト及び参考書

『幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』 林幸範、石橋裕子 同文書院

6. 実務経験の有無

- あり (資格 : 小学校教諭一種、保育士資格)
 (実務 : 小学校教員)

科 目 名	保育士現場実習Ⅱ	担 当 者	山下 和子	ク ラ ス	期 別
				2 N T	通 年

1. 教育目標

保育所の保育を実践し、

- ① 保育士として適切な保育を行うために必要な資質・能力・技術を習得する
- ② 子どもの個人差、発達の遅れやさまざまな生活環境にある子どものニーズを理解し、対応について学ぶ
- ③ 保育士としての職業倫理を理解する

3. 授業内容

これまでの保育実習での学びを踏まえて、子どもの観察とその記録及び子どもへの援助やかかわり方等を保育現場での実践を通して総合的に学び、保育実践力を確かなものにする。

さらに、専門職としての保育士の役割と職業倫理を学び、保育士としての自己の課題を明確にする。

3. 授業計画

1	オリエンテーション
2	観察、参加実習 <ul style="list-style-type: none"> ・担当保育士の指導のもとに積極的に参加する ・手遊び、絵本の読み聞かせ等の実践

4. 評価方法

- ・実習日誌、事後レポートなどの課題提出
- ・勤務状況等

5. テキスト及び参考書

『幼稚園・保育所・児童福祉施設等実習ガイド』 林幸範、石橋裕子 同文書院

6. 実務経験の有無

- あり (資格 : 小学校教諭一種、保育士資格)
 (実務 : 小学校教員)

科 目 名	乳幼児心理学 (スクーリング)	担当 者	村上 千津	ク ラ ス	期 別
				2 NT MS (選択)	後期

1. 教育目標

- (1) 乳幼児期の心理的発達の特徴を理解する。
- (2) 知識をもとに保育場面や日常生活の中で活用できる能力を養う。
- (3) 授業の内容をもって実習に臨み、理論と実践のつながりを体験的に理解する。
- (4) さまざまな課題を通して、主体的に学ぶ態度を身につける。

2. 授業内容

乳幼児の発達の特徴について、誕生から幼児期までの発達について把握する。

乳幼児期の発達の特徴を領域ごとに学びながら、気になる乳幼児の行動について事例をもとに考えていく。子どもをとりまく多様な環境について理解を深めることを目的とする。

3. 授業計画

1	乳幼児の心理と発達の道筋
2	乳幼児の人間関係
3	愛着関係を育むかかわりとは
4	愛着形成と自己肯定感
5	DVD視聴（主体的な遊びで育つこども）
6	映像から見える乳幼児の心理について
7	グループワーク（自己肯定感を高めよう）
8	〃 (作ってみよう私の木)

4. 評価方法

- ・出席状況
- ・学習態度
- ・課題製作

5. テキスト及び参考書

- 参考書 「楽しく学べる乳幼児の心理」・・・櫻井茂雄・岩立京子
 〃 「子どものへのまなざし」・・・佐々木正美
 〃 「図で読む心理学」・・・川島一夫
 視聴覚教材 「あそんでぼくらは人間になる」・・・大豆生田啓友 中坪史勲 編著

6. その他

科 目 名	保育実践研究	担当者	山下 和子	ク ラ ス	期 別
				2 N T	通 年

1. 教育目標

- 保育に関する体験を通して、保育を展開する上で必要な基礎知識や基礎技能を習得するとともに、保育実践に応用することができるようになる。
- グループでの活動を通して、保育者として必要となる基本的な資質や能力、保育者の役割等を知り、具体的な保育者像をもつようになる。

2. 授業内容

幼児期にふさわしい生活の展開や遊びを通じた総合的な保育が重視される保育現場において、子どもの育ちを支えていくための遊びや生活をどのようにつくっていけばよいかを、具体的な保育実践を通して学ぶ。
 また、保育者の役割や保育の内容についての理解を深め、保育者を目指す者としての資質向上を目指す。

3. 授業計画

1	学外実践（障害のある子どもへの支援）
2	学外実践（障害のある子どもへの支援）
3	模擬保育
4	劇あそび（準備・練習）
5	劇あそび（準備・練習）
6	劇あそび（準備・練習）
7	学外実践（劇発表）
8	学外実践（劇発表）
9	学外実践（パネルシアター、エプロンシアター等の実演）
10	学外実践の振り返り

4. 評価方法

授業への積極的参加（60%） レポート、課題（40%）

5. テキスト及び参考書

授業中、資料を配布する

6. 実務経験の有無

あり （資格：小学校教諭一種、保育士）
 （実務：小学校教員）